

多摩のくらし～歳時記～代表的仏像の種類と役割～



私たち日本人は、毎日仏壇を礼拝し、ご飯やお茶を供え、花を飾り、先祖や仏、宗派の祖を崇める習慣があります。仏教の世界にも宗派、分派があり、それぞれに独自の作法、しきたりがありますが、仏とは完成した人格であり、慈悲と知恵の心をもった者の総称です。昔から多くの仏師が、仏の姿を形に表そうと数多くの仏像を作ってきました。大別すると次の四像になります。

① **如来像** 5つの姿があり、釈尊（釈迦）の姿を写したものです。「釈迦如来」は、他の如来の原型といわれ、左手に薬壺（やっこ）を持つ「薬師如来」は、医薬に権威をもつ方という意味の名称です。「阿弥陀如来」は未来の方向、極楽浄土の教主であり、「盧舎那如来」は、三千大世界という壮大な宇宙観の思想からきている仏

様です。「大日如来」は例外的に菩薩の形で、宇宙を神格化した密教の教理からきているといえます。

② **菩薩像** 菩薩とは菩提（さとり）を求めて修行するということで、最初に作られたのは、さとりを開く前の釈尊の像であったといえます。「普賢菩薩」、「文殊菩薩」、「弥勒菩薩」、「地藏菩薩」などがあります。

③ **明王像** 「不動明王」「五大明王」「愛染明王」「朱雀明王」があり、最大の特徴は憤怒の形相にあります。魔性を威圧する迦楼羅炎という光背があり、岩座などの台座に乗っています。

④ **天部像** バラモンの神々が仏教に帰依したもので、「梵天」「帝釈天」「四天王」「仁王」「吉祥天」「弁才天」などがあります。
(川口キン)

たま今昔

区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

その8 川崎市立登戸小学校



昭和初期当時の校門／出典：創立140周年記念地域学習誌のぼりと 現在の登戸小学校

川崎市立登戸小学校は、明治6年、善立寺内に開校し、大正3年に現地へ移り、昨年140周年を迎えた、市内でも深い歴史を持つ小学校です。

開校当初は児童が30数名でしたが、現在では登戸新町と登戸（約半分）を学区とし、約780名が通う大所帯となっています。地域の発展と共に歩んできた登戸小学校の卒業生は、約16,000人を数えます。正に地域に根ざし、そして愛される小学校です。

「たま今昔」に掲載する昔の写真募集中!

ご自宅に眠っている、多摩区の昔の姿を捉えた写真を広報誌に掲載しませんか?
ご提供いただける方は、事務局までご連絡ください!

編集後記

多摩区にも今年は二週連続で予想外の大雪が降り、雪かきに新たにスコップを買い求めた人も多く、雪国の苦労が分かったという声も。あれから3年、被災地の人たちにも一日も早く暖かい春が来て欲しいものです。(古川)

■ まち協のホームページ <http://tamaku-machikyo.com/>

たまの顔

春の野山に咲く花 スミレ



タチツボスミレ

多摩区の「区の木・花」は、平成8年に一般公募により4つが選定されています(ハナミズキ、ナシ、モモ、スミレ)。中でも野生のスミレは、丘陵地や自然林のそこかしこに可憐な花を咲かせていて、多摩区内の自然を残し護る象徴として選ばれたようです。

まだ寒さが残る春3月中ごろから4月中旬ごろまで、生田緑地内でも何種類かのスミレを見ることができます。最も早く咲く「アオイスミレ」、群生して目立つ「タチツボスミレ」、甘い香りがする「ニオイタチツボスミレ」、湿った場所を好む「ニョイスミレ(ツボスミレ)」などがあると生田緑地整備事務所に聞きました。皆さまも散歩しながらどこかでスミレに出会ったら、種類の違いを観察してみたいかがでしょう。ただし、抜き取るなどの行為はNGです。そっと愛でて大切な自然をみんなで守りましょう。



上：ニオイタチツボスミレ
下：ニョイスミレ(ツボスミレ)
【写真提供】生田緑地整備事務所(3枚とも)

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148 FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会は、区民の自主的なまちづくり活動組織です。区民が取り組む地域活動を、年4回発行でお知らせしています。

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS

2014年
(平成26年)3月

43号



多摩の風景

五反田川の鯉のぼり

川の上を気持ちよく泳ぐ鯉

五反田川に100匹以上の鯉のぼり

100匹以上の鯉のぼりを見ることができる場所が多摩区にあります。小田急線の生田駅手前に架かる、生田大橋の下を流れる五反田川です。今年は4月13日から5月5日ごろまで、大小色とりどりの鯉が見られます。もちろん電車から見ることもできます。

町おこし目的で、家庭に眠っている鯉を寄付してもらい平成20年から始まったこのイベントは、今回が7回目。当初の12匹から、昨年は約150匹に。4月13日の午前10時から、近くに住む親子がロープに鯉を結びます(誰でも自由に参加できます!)。鯉を結びつけたロープは川のそばに立つ銀杏の木とポールに張られ、お昼頃には五反田川にたくさんの鯉のぼりが現れます。今年が目玉は、長さ10m近くもある3匹の鯉を川のフェンスに固定してその大きさを感じてもらおうことです。「子供たちに夢を残したい。そしてここ五反田という地名を忘れないで欲しい」と、五反田自治会の吉田輝久会長(71)は語ります。

長さ4.8kmと普段は余り目立たない五反田川ですが、鎌倉時代からこの場所を流れていて、吉田さんが子供の頃にはウナギやフナが獲れたそうです。五反田川の鯉のぼり、私たちでもっともっと大きなイベントに育てていこうではありませんか。



住所：生田8丁目五反田川
交通：生田駅 徒歩4分

+ 活動 五反田自治会



夜間パトロールの装備は万全

生田駅周辺を中心に広がる五反田自治会は「楽しい町・住みよい町」を合言葉に、1,500世帯が一致協力して町の活性化に取り組んでいます。夜間パトロールもその一環で、防犯用のグリーンベストと帽子を着用した姿は心強い限りです。

電話 044-966-3358 (吉田会長)

まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っているさまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報などを、トピックス仕立てでお届けします！

【まち協ホームページ】
<http://tamaku-machikyo.com/>

「はなもす」と「多摩区ガイドマップ」がリニューアル！

情報

区観光推進協議会では、区内の豊かな観光資源やグルメスポットが満載のガイドブック「はなもす」と、見やすい地図やイベントカレンダーなどが掲載された「多摩区ガイドマップ」をリニューアルして発行しました。デザインが一新されただけでなく、内容もさらに充実しています。この春はなもすとガイドマップを手にまちに飛び出そう！



はなもすと多摩区ガイドマップ

多摩区のまちを元気にする
まちづくりカッドウを紹介します！

まちカッ！

2014
2/11
(火・祝)
13:00~16:30



本多 正典会長



大勢の前でまち協第3期の活動を報告

第3期（平成24年4月～26年3月）のまちカッ！（まちづくり発表会）を、2月11日、多摩区総合庁舎11階会議室で開催しました。100人を超える参加者で、会場は終始熱気に包まれていました。

「特定非営利活動法人 ハンズオン!埼玉」の西川正氏による基調講演（P6でご紹介）に続いて、第3期のまち協の活動を報告しました。

第3期では特に、中間支援的機能の充実に力を入れてきましたが、その中でいくつか新たな活動の展開があったので、ご紹介します。

多摩区 みんなの公園体操で貯筋を！

記事

古川

この体操は、ボランティアさんと保健福祉センターが協働で作成し、平成18年8月に14会場で始まりました。現在、区内の公園や神社など30会場で週36回実施するまでになり、平成24年度は年間延べ26,500人が参加しました。筋肉の衰えは40代から始まる一方、貯えることができる（貯筋）とも言われます。是非若いうちから貯筋に励みましょう。タオル1本で誰でもできます。



タオルを持って元気に体操

近くにある会場で気軽に参加しましょう。

長尾のあじさい寺

記事

古川

長尾山妙楽寺（あじさい寺）では毎年6月第3日曜日に、「長尾の里あじさいまつり」が開催されます。境内では、地元農家さんの野菜や果物の販売、出店やお抹茶（野点）の他、花鉢のプレゼントが2回に分けてあり、地域で大変な人気です。



妙楽寺のアジサイ

「アジサイ」は登り道から長尾神社までの山肌にも保存会の人たちの手でたくさん植えられ、手入れされています。見頃は6月中旬頃から。

※主催は長尾の里あじさいまつり実行委員会、25年度委員長は井田肇氏

テーマごとの交流の場「多摩★まち Cafe」の開催



その一つが3期から始めた「多摩★まち Cafe」です。カフェのような雰囲気の中で、「環境」「子育て」などテーマを設け、そのテーマに関連した活動をされている団体相互の情報発信と区民を含めた交流を行いました。



テーマに精通した団体の活動紹介後は参加者で意見交換



カフェらしさを徹底的に演出

初の体験型連続講座を開講

また「多摩★まち大学」では「孫に好かれるシニアになろう」と題して、「知る」「見る」「考える」と講師人から座学を受け、後日活動団体の活動現場を訪れました。そしてシニアが子どもにできることについて議論し提案をまとめました。この講座は、複数のメディアで報道されたり、新しいプロジェクトが芽生えたりするなど、多くの成果を上げることができました。



第1回「知る」



第2回「見る」



第3回「考える」

多くの協力を得て充実した全3回のプログラムを実施

満開！多摩区のサクラ

記事

藤田

多摩区の春、地元の方のご尽力で、サクラはあちこちで満開です。よみうりランド東の「菅さくら公園・さくら通り」、多摩川畔の「稲田公園」、上河原堰からの「二ヶ領用水本川」、最も著名な「宿河原堀」など。晴れた日にはお花見の家族連れで一杯。散策の最後には、生田須賀神社の夜桜もお忘れなく。



上：菅さくら通りのサクラ
下：生田須賀神社の夜桜

日本女子大キャンパス散策

記事

本多

晩秋の12月14日人間社会学部主催の「紅葉の西生田キャンパスで撮影会&コラボ商品お披露目会」に参加しました。まだ紅葉したもみじが残る校内の道を、正門より学生さんの案内で約1時間色とりどりに染まった木々の写真を撮りながら、楽しい散策でした。また数種類のコラボ商品のお菓子を試食させていただきました。



日本女子大学校内は隠れた紅葉スポット

広報誌の全面リニューアル

広報誌も3期から全ページカラー化しました。1頁には多摩区の魅力ある景色などを掲載し、まち協の活動報告だけでなく、区民や活動団体との橋渡しになる記事を掲載しています。まち協の2つ目のミッションであるまちづくりの課題とその解決については、多摩区区民会議の提言もあり、区内の環境改善に対する啓発活動とネットワークづくりを目的とする多摩エコスタイルプロジェクトが3期に生まれました。



手に取ってもらいやすいようカラー化

まち協プロジェクト 多摩の居場所ふらっとの第3期活動報告

まち協プロジェクト 多摩エコスタイルの第3期活動報告

地域に～世代間が交流出来る場づくり～を目指して様々な活動団体のご協力を得ながら、

1. 枡形・菅・長尾3ヶ所の「いこいの家」での世代間の交流の場づくり
2. 他団体との連携・ネットワークづくり



粕谷 充子代表

の2つに力を入れてふらっとの活動を行いました。



普段はシニア世代が活用する「いこいの家」を新たな世代間交流の場として活用しました(下の4枚の写真も「いこいの家」での活動)

1. 枡形・菅・長尾3ヶ所の「いこいの家」での世代間の交流の場づくり

親子やシニアが入り混じっていきいき体操をしたり、エプロンシアターをみたり、マリンバの演奏を聞いたり。人気の『まんから』のゲームは子どもたちが大人にやり方を教えてくれました。また作った割りばし鉄砲的当てをして駄菓子を手に入れた子どもたち。一方ふれあいコーナーでは茶菓子を囲んで参加者同士の楽しい話し合いの場を持ちました。6回の開催に200名以上の参加者が楽しいひと時を過ごしました。いこいの家は敷地内に子ども文化センターもあり多世代が交流するのに適した場所でした。お母さんたちが体操してスッキリしたので、毎日でもしたいと言っていたのが印象的でした。



2. 他団体との連携・ネットワークづくり

「ふらっと」を区民の方に広く知ってもらったり、他団体とのネットワークを作るために、今年は「たまたま子育てまつり」「多摩区民祭」「緑化センターまつり」「登栄会商店街祭り」といった区内で開催される大小さまざまなイベントに参加し、連携しました。

また、これまでに定例化した活動は、今年も引き続き行いました。観光ボランティアガイドや森林インストラクターの方との、春と秋の自然観察会(ハイキング)や、乳幼児親子や地域の方とのクッキング、車座勉強会などです。中学校や5ヶ所のわくわくプラザなどを利用した、世代を超えた子どもたちとの交流は、ふらっとがプロジェクト活動をしていく上での大切なテーマであり、区民や活動団体から大きな期待をされています。



区内各所でのイベントに積極的に参加し、連携しました



自然観察会やクッキング、学び場は世代を超えた交流の大事なイベント



わくわくプラザで「ドラえもん折り紙」や「クイリング」などを体験

次世代へより良い環境を引き継ぐには、今からそのための仕組みづくりが必要であると考え、

1. 区民の環境に対する意識の向上
2. 区内の環境団体とのネットワーク化と連携活動のための「場」の構築



石郷岡 純代表

をテーマとして活動しました。

1. 区民の環境に対する意識の向上

区内で開催されるいろいろなイベントに積極的に参加したり、自主企画を開催して、区民の皆さんとの対話を通してエコライフの普及啓発活動をしてきました。民家園通り商店会で行った「エコ紙芝居」の熱演や、これまで2回参加した多摩区民祭での「1日1エコ運動」の展開、太陽光発電などの自然エネルギーの普及活動などが主立ったものです。

「多摩区夏休みエコフェスタ」では「牛乳パックでうちわ作り」という企画を行い、小学生が牛乳パックに絵を描いて割り箸を挟んでうちわを作りました。「生田緑地サマーミュージアム」では、川崎市地球温暖化防止活動推進センターの3R推進グループと共催で「ごみ分別クイズ」を行いました。

自主企画では「エコショッピングクッキング」を3回開催し、エコな買い物、省エネ調理方法、旬や地産地消の食材、重曹を使った、後片付けなどを意識した料理を子ども連れの皆さんと作りしました。また、「多摩区にエコの種を蒔いて緑のカーテンを作ろう」を提唱し、緑化センターの佐久間さんを招いて「ゴーヤの育て方講習会」を2回開催しました。

また、区民の皆さんにとって身近な話題である、昨年9月に始まったプラスチック分別回収に少しでも役立つよう、区役所1階アトリウムで「ごみ分別クイズ」を開催し、好評でした。

その他、自然エネルギー利用の啓発活動として「シェーナウの想い」という映画の上映会、エコライフ活動環境パネル展示なども行いました。

2. 区内の環境団体とのネットワーク化と連携活動のための「場」の構築

区内の環境団体と繋がっていく「場」の構築にあたっては、今期はエコライフ普及活動に力を注いだために、「多摩★まちCafe」において、区内でエコ活動している5団体との交流を図るに留まりましたが、この交流は次に繋がっていくものと考えています。

今期は、約900名の区民の皆さんとさまざまな機会を通じて、交流することができました。来期も今期の活動を基に区民の皆さんと会話を通じてエコライフ普及活動し、商店会・町内会・3大学などとの連携にも取り組んでいきたいと思ひます。



多摩区民祭にエコスタイルのブースを出展



大好評!エコショッピングクッキング



ごみ分別クイズは一度やれば即実践に!



多摩★まち Cafe は環境団体との大きな接点

講演会「広げようみんなの力！」 特定非営利活動法人 ハンズオン!埼玉 西川正氏

「七輪、やきいも、かぶりもの」

「理髪店とまとまった話が苦手」「カブリモノづくりが趣味」といった楽しい自己紹介からスタート。「かぶる／食べる／あそぶ」をキーワードに人が出会うためのさまざまな手法を紹介。福祉作業所のクッキーなどの“義理買い”を脱しようとアーティストやシェフに協力してもらってリニューアル。「福祉という言葉を日常的に使っている人は1割、おいしい・かわいいは9割」「漢字」（のスローガンや計画）より“感じる”をだいに。とにかく明るさ・楽しさが目いっぱい詰まった講義でした。30分では語り足らず、聞きたらず次回改めて、と要望が上がっていました。



ハンズオン!埼玉の西川正氏



かぶりものをかぶったのは...

ポスターセッション(区内活動団体の発表の場)

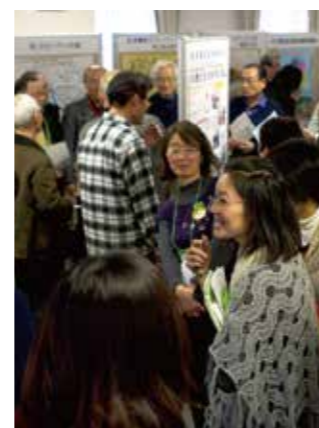
新規7団体を迎えて、過去最大規模の25団体が参加!

各団体2分間の持ち時間で、活動内容をプレゼンテーション。丁寧に作られたポスターの前で、熱意・工夫のこもった発表。その後の9分間の交流タイム(3組にて)では、団体の方々が、出席者からの質問に熱心に答えていました。

参考 2月3日から2月14日まで、多摩区役所1階アトリウムにて各団体の活動発表ポスター展示を実施



各団体2分間の持ち時間で上手にプレゼンテーション



交流タイムも大盛況

第1回「ベストプレゼンたま賞」

初代ベストプレゼンたま賞は「登戸研究所保存の会」!

今年から、会場に来られた参加者の方々に印象に残った団体に投票をしていただく「ベストプレゼンたま賞」を設置、栄えある第1回目の同賞は、緻密なポスター／リーフレットと興味深いプレゼンテーションを行った「登戸研究所保存の会」に豪華な副賞とともに贈られました。

登戸研究所保存の会

「陸軍登戸研究所」は秘密戦・謀略戦に重要な役割を果たし、風船爆弾／にせ札／生物兵器、スパイ器材等を研究・開発、製造を行っていました。明治大学生田キャンパス内にある同戦争遺跡を国の文化財として保存する活動や、市民や子どもたちに伝えるガイド活動をしています。2010年3月開館した「明治大学平和教育登戸研究所資料館」にはすでに、3万人を超える来館者があったとのことでした。



参加者の皆さんが投票



記念に活動に役立つ品などを贈呈

ポスターセッション&ポスター展示に参加した活動団体

稲田郷土史会

昭和42年創立、46年の歴史を持つ。約40名のメンバーで、郷土史の研究／機関誌『あゆたか』の発行／文化財の保護／見学会／地域連携を行っています。昨年3月には向ヶ丘遊園駅近くの広福寺の石碑文を解説し、東京新聞の第一面を飾りました。また、多摩区発行観光ガイドブック『はなもす』の作成にも協力しています。



地域通貨たま運営委員会

平成19年10月からスタートした、多摩区の中で人／市民活動団体／商店などを回る「お礼の気持ち」を表す通貨「たま」。誰もが暮らしやすく、住み続けたいまちの実現に大切な「参加」と「つながり」を作り出すためのツールです。使えるお店なども約60店以上(一部は全額「たま」で支払可)、個人ではお互いのできること／してほしいことを「たま」を介してやりとりしています。



たまザーもも倶楽部

子どもたちに残したい素敵な「ふるさと」の実現を目指して活動中。現役育児中のママたちのグループ、子どもたちはもちろん、ママやパパにも多摩区を「ふるさと」として愛してほしい!との思いから親子で楽しめるワークショップなどを開催しています。



参照 ブログ「たまも通信」

からふる!

色の力で地域を元気にしようとKS(川崎・専修)ソーシャルアカデミーの卒業生を中心に2012年に発足。その第一弾は色彩、印刷(かわさきマイスター)のプロと折り紙デザイナーがコラボした「かわさき折り紙プロジェクト」...厳選した川崎由来の地域の宝・20色による折り紙とオリジナルの折り方を制作。川崎の魅力の再発見を目指しています。(例:禅寺丸の柿色、南武線の黄色、麻生区のヤマユリの白、川崎大師だるまの緋色など)



出典団体一覧

- 41-products
- かわさきかえるプロジェクト
- ソーラーチーム
- NPO 法人 川崎フューチャー・ネットワーク
- NPO 法人 まめな人生
- NPO 法人 ままとんきっず
- みた・まちもりカフェ 三田サポートわなり
- たま文化財ボランティアの会
- 登戸研究所保存の会
- 稲田郷土史会
- NPO 法人ぐらす・かわさき 遊友ひろば
- 多摩区でプレーパークをやっちゃおう会
- クローバーの会
- インターネット川崎ガイド
- 日本民家園 炉端の会
- Club@ICT
- 多摩区地域教育会議
- たまザーもも倶楽部
- 多摩区民生委員児童委員協議会
- 生田地区すこやか活動推進委員会
- 多摩区運動普及推進員の会
- 長尾台コミュニティ交通導入推進協議会
- からふる!
- 福島子どもたちとともに「川崎市民の会」
- 地域通貨たま運営委員会